

おまけシリーズ

「ガーディアンの気持ち」ならぬ「私の独り旅日記」→第5回

昨年(2022年)9月5日～9日まで北海道と東北の秘湯温泉を訪ねる旅に出ました。今回も例によってJR東日本とJR北海道の新幹線、特急、在来線乗り放題5日間、26620円という格安切符での旅です。前回、我が家から二宮駅までタクシーで2千円掛かったので、今回はせっかく格安切符で行くのだから、少しは努力の必要と変に自分を納得させて二宮駅まで歩いて30分程かけて行きました。以前なら20分位で行けたのに、やはり年かな?と思いながら。

第1日(9月5日)

東京発6時32分の新幹線ハヤブサの座席に着くといつものルーティンでコーヒーを飲みながら10人程いるメル友にラインやメール(近所の方には私の安否確認もかねて)を打ちながら、時々車窓からの景色を見ながら、本を読み、少し居眠りなんかしている間に4時間があっという間に経ち新函館北斗についてしまいます。札幌行きの特急に乗り換える時には少し寒さを感じるほどでした。大磯では残暑なのに、と思いながら。

この日は秘湯の湯に行く予定でしたが前日になって、宿の奥さんより「主人が急病で入院することになったのでキャンセルさせて欲しい」ということで仕方なく以前紅葉の時行って素晴らしかった札幌の奥座敷としても有名な定山溪の大きなホテルに電話をしたら空いているとのことで定山溪に行くことにしました。

秘湯の湯を訪ねる旅ではこんなこともあります。ひとり旅ですから気楽なものです。まだ紅葉の季節には少し前でラッキーでした。まだコロナ禍で比較的空いていたようで、安い値段で新館の良い部屋に泊まれてよかったです。料理はマンモスホテルでしたからそれなりでしたが。

第2日(9月6日)

2日目は今回のメインの一つでもある知内(しりうち)温泉という秘湯の湯温泉なのですが定山溪からは札幌に出て更に函館に戻り、新幹線で1つ目の木古内(きこない)という駅からバスに揺られること1時間、更に宿の送迎バスで20分位山の中に入って行きます。さぞかし山の中と思いきや、地図で見ると分かりますが海も割と近くでした。

ですから大磯のような感じとも思いますが、山の深さは比較になりません。午後3時頃に、着いたので近くを散策してみようと山の中に入って行きますが、途中で「熊が出たらどうしよう」と思い30分ほど歩いて宿に戻りました。宿に戻って>Welcomeドリンクは美味しい湧き水でしたが、それを飲みながら宿の人に熊の話聞いたなら平気な顔で「たまに出来ますよ」と言われたので散策は早々に切り上げて良かったと。

こんな辺鄙な温泉に来るもの好きがいるか?と聞いてみると、北海道の人がほとんどですが、たまに本州の人も来られるとか。この日も1組の老夫婦がいたので聞いてみるとご夫妻で秘湯の温泉巡りをされているとか、私と同じようにJRの安いチケットで。私と違う所はご夫婦で来ていたことで、ちょっと羨ましく思ったのは本音です。温泉も料理も山の幸と海の幸が両方食べられてよかったです。

第3日（9月7日）

3日目は本州に戻って(因みに北海道の人は本州のことを内地と言いますが)、盛岡からレンタカーで藤七(とうしち)温泉に向かうのですが、そうだ小岩井牧場に寄ってみようと、車のナビで小岩井牧場を入れるのですが何度やっても入らないのです。あきらめて藤七温泉に行きました。藤七温泉について地図を見るとなんとそこは「小岩井牧場」でなくて「小岩井農場」だったのです。単純なミスをしてしまいました。

藤七温泉は山好きにはたまらない温泉です。60年前に八幡平登山の帰りに立ち寄った硫黄の露天風呂は昔の儘で、大きな露天風呂8つほどあり、もちろん今でも混浴の露天風呂ですが地面からボコボコと硫黄温泉が湧いているのです。

遠くから見ると湯煙が立ち上っていて見事です。こんな素晴らしい温泉宿なのです。

10月から4月末までの冬季間は雪のために閉鎖になるのです。多分昔、山に登った山ガールグループなどで満員でしたが、日帰り温泉の方は家族連れが沢山来ていました。宿の廊下は地震のせいかな？10度以上傾いていましたが(笑)、料理は山の幸が満載で美味しかったです。

第4日（9月8日）

藤七温泉を朝8時に出て、石川啄木の記念館→小岩井農場→宮沢賢治記念館などを見学して岩手県の北上市の外れの夏油(げとう)温泉まで行きました。

昨日行けなかった小岩井農場は思っていた以上に広く、農場というよりやはり牧場でした。バター、チーズ、牛乳などの乳製品が有名ですがステーキも美味しかったです。さて、それではここで問題です。「**小岩井農場の名前の由来をご存じですか？**」私は知りませんでした。ご存じない方はネットで調べてみてください。

夏油温泉への道はさらに複雑でした。ナビで行くのですがなかなか着かず、途中で何回も宿に電話して聞きながら行きました。「こんなところにポツンと1軒家」ではありませんが、狭い山道や反対側は断崖絶壁のような道を慎重に運転しながら暗くなる前にやっと着きました。ここは知る人ぞ知る人が来る、というような所でした。

秘湯温泉好きな方が7,8組ほど来ていました。山の幸の夕食を済ませて早速露天風呂に入りに行くのですが、暗くなった夜道を7,8分歩いて行くので、また熊や鹿、蛇などが出そうで宿の下駄をカラコロンと鳴らしながら行きました。もちろん温泉は素晴らしいのですが。物音がすると怖かったりしながらも秘湯温泉を堪能しました。

この温泉も昔は農閑期の農家の人たちが湯治に来たところで、今でも地元の農家の人たちは自炊しながら長期滞在するようです。

第5日（9月9日）

夏油温泉を朝8時に出て、また山道を慎重に運転しながら新幹線の北上駅でレンタカーを返して東北新幹線に乗って、5日ぶりに東京、大磯と戻ってきました。

今回も小さなハプニングもありましたが天候にも恵まれて素晴らしい旅が出来ました。東京に近くなると「次はどここの秘湯に行こうか？」と考えている自分がいました。

(BY テツ&ゴン)